

第5回 明石市公設地方卸売市場あり方検討委員会 議事概要

日 時：2026年4月21日（火）14：00～15：42

場 所：明石市役所 議会棟2階 大会議室

出席委員：竹川会長、副島副会長、藤田委員、川崎委員、神足委員、堀田委員

1. 開会

会 長 只今から、第5回あり方検討委員会を開会する。

2. 報告書(案)について

会 長 次第の2「報告書(案)」について、事務局から説明願う。

事 務 局 (資料説明)

会 長 それでは、報告書(案)について、確認を進めていく。

副 会 長 検討項目ごとに主な意見がまとめられているが、どのようなルールで掲載順を決めているのか。

事 務 局 原則として議事概要の順に掲載し、類似の意見についてはまとめて掲載している。

副 会 長 意見の掲載順が整理されていないようで、読みにくく感じる。また、ネガティブな意見が最初に掲載されているようにも感じた。

委 員 私は費用を抑えることに重点を置いて意見してきた。その点をネガティブと感じる方もおられるかと思うが私はそうは感じない。

会 長 費用対効果はとても重要だ。重要だからこそ最後に掲載することも考えられる。

委 員 読みやすいように順番を変えることには同意する。

委 員 私も同意見だ。

会 長 意見の掲載順は、会長に一任いただくということでよいか。

なお、修正後の報告書については、確定前に委員にご確認いただくこととする。

各 委 員 同意する。

▶明石市場が持つべき役割

意見なし

▶明石市場の取扱数量・取扱高の維持・向上を図るために必要な機能

〈コールドチェーン〉

委 員 4項目めに「今年のような暑い夏」とあるが、「2025年」とするべき。

会 長 承知した。

〈HACCP〉

委員 2項目めの海外販路に向けた取組については、今年に入って新たな取組を行っているので掲載してほしい。具体的な内容については、後ほど事務局と調整させていただきたい。

会長 承知した。

〈災害時における生鮮食料品流通拠点機能〉

委員 3項目めに「分科会の検討シートの意見にもあるように」とあるが、注釈などで意見の概要を記載する方が読みやすい。

会長 承知した。

〈その他〉

意見なし

▶明石市場の開設及び運営主体

意見なし

▶再整備の場所

委員 「現地再整備に関する意見」の4項目めに「現在は耐震性の問題から小学生の見学の受入れを停止している」とあるが、現在は見学を再開しているので修正願いたい。

会長 承知した。

委員 「移転に関する意見」の1項目めについて、水産部門だけが海側への移転を望んでいると思われるのは本意ではない。あくまでも水産・青果・関連事業が同じ場所にあることが最優先であって、3部門がそろって海側に移転できるのであればその方が好ましいとの考えだ。正しく伝わるように修正願いたい。

会長 承知した。

▶再整備の方向性

意見なし

▶再整備後の施設の規模

委員 かねてから主張しているが、令和2年に廃止された基準を用いて規模の目安が算定されていることに疑問を感じている。事業者の立場として現状維持と主張した理由は、明石の食のビジョンを示すためにも、まずは現状維持から議論したいとの思いからだ。その点を意見として掲載してほしい。

縮小することを前提とした議論であるかのように感じられる。

副会長 令和2年に廃止された基準を用いて規模の目安が示されたが、それにとらわれることなく、現状やこれから必要な機能を考慮して検討すべきとの主張だと思う。これを、主な意見の先頭に入れてはどうか。

委員 承知した。

- 委員 そうすると、現状維持を求める意見と規模縮小を求める意見が混在することになるが問題ないか。
- 委員 公募市民として費用を抑制するために規模縮小を主張した。対立する意見を併記すればよい。
- 会長 本検討委員会の進め方としては、検討委員会としての統一見解を取りまとめるのではなく、委員の意見を幅広く聴取して報告書に記載することとしている。したがって、対立する意見の一方を削除することは行わず、そのまま両論を併記することとする。

▶再整備の方法

- 副会長 主な意見に「担当者」との記載があるが、これは市場の事業者を含む関係者という意味で発言したものだ。その旨を追記願いたい。
- 会長 承知した。

▶水産物分場のあり方

- 委員 水産物分場の敷地は兵庫県から使用許可を受けているが、その条件（用途の制限など）を記載すべきではないか。
- 事務局 兵庫県からは荷捌場と看板設置について許可を受けている。したがって、その他の用途には使用できない。その点は報告書に記載している。

▶「はじめに」「おわりに」について

- 委員 会長・副会長で書かれるとのことだが、その内容を委員は確認することはできるのか。また、内容に対して意見をすることはできるのか。
- 会長 問題ない。

▶その他

- 委員 施設が老朽化し、耐震性が著しく低い。従業員や見学に来る小学生の安全を確保する責任が明石市にはあることを認識してほしい。

* * * * *

- 会長 報告書についての各委員の意見は出そろった。
会長、副会長と事務局において、本日の意見を反映させたいと考えている。会長に一任いただきたい。
- 各委員 同意する。
- 会長 修正した報告書については、公表前に各委員に最終の確認をお願いするが、大きな誤りなどがなければ修正なしとさせていただきます。

3. その他

- 会長 本日が検討委員会の最終回となるので、各委員から全体を通じた感想などをお願いしたい。

- 委員 公募委員として参加し、分からないことも多々あったが勉強になった。
- 委員 明石市の市場に対するビジョンが示されず、また、市場関係者も市場の将来に対する考え方がない中で、施設の規模などを議論するのは無理があるのではないかと感じた。
- 委員 市場として一定の規模が必要なのであれば、他の機能を併設することも方法の一つではないかと思う。その一案が防災拠点機能や賑わい施設である。今後の検討にあたっては一考願いたい。
- 委員 市民にとってより良い明石市場になることを願っている。
- 委員 報告書の12ページの主な意見の2項目めに、「明石市の食のビジョンを明確にし、当該ビジョンに基づく卸売市場の役割・規模を検討すべき」とある。第2回分科会で、市の担当者に明石市の食のビジョンがあるかどうかを尋ねたところ、食のビジョンはないが、食品ロスや食育、地産地消といった取組を行っているとのことであった。事業者や生産者側から提案して欲しいという答えだったので、それなら自分たちでビジョンを作ってみようという考え行動に移した。具体的な取組についてご紹介したい。
- 2月から3月にかけて市民らを対象にアンケートを実施し、明石の食や卸売市場に関する意見を集めた。アンケートには154人から回答が寄せられた。アンケート結果とあかしSDGs推進計画やそれに紐づく都市計画マスタープランなどに照らし合わせながら、未来の地図のメンバーで議論を重ね、「食」の創造推進ビジョンとそれに沿った明石市場のビジョンとあり方を策定した。
- 「食」の創造推進ビジョンの目指す姿は「海と土のリズム、時と食を感じる暮らし～世界に誇れる日常～」とし、5つの方針とそれぞれの方針に沿った、9つの重点プロジェクトと10年後の姿を記載している。
- 明石市場のビジョンとあり方では、市場の目指す姿を「海・土の物語を台所に届ける。世界有数の『食の翻訳・交流拠点』」とし、4つの機能価値と果たすべきあり方を掲載している。興味のある方は、資料をお渡しするので会議後にお声がけいただきたい。
- 今後は水産部門のメンバーに青果部門・関連事業者も加わり、合同で勉強会・意見交換会を実施することも決まった。今後も市場内で議論を重ね、外部から意見をもらう中でさらにビジョンを磨いていきたいと考えている。今回、ビジョンを作成して方向性や将来像をしっかりと考えて作ることの重要性を痛感した。検討委員会やそれに向けての勉強会などを経て、市場内部でこういった気づきがあったことは、私たちにとって大きな変化だ。卸売市場の再整備は、機

能はもちろんのこと、まちづくりの視点も重要だと感じている。この先、基本構想や基本計画などを決めていくに当たり、さらに情報収集や議論を深めて、市民のため、まちのためになる卸売市場を目指していきたい。

こうした私たちの取組や決意も報告書に載せていただきたい。

会 長 報告書は、検討委員会での取組をまとめたものであって、検討委員会の外での取組を報告書に掲載することはできないのでご了承願いたい。

ビジョンを作成されたことの是非やその内容で報告書への掲載の可否を判断しているのではなく、検討委員会の中で議論されていないことを報告書には掲載できないという意味だ。私個人としては、民間からのボトムアップでこのような動きがあることに非常に感動し、驚いている。

委 員 検討委員会において、市場外部の委員からの意見は非常にありがたかった。いただいたご意見を踏まえて、場内事業者でも明石市場の活性化に向けた議論を重ねていきたい。

会 長 報告書提出後の進め方について、事務局から説明願う。

事 務 局 (資料説明)

委 員 基本構想や基本計画の策定段階で、市場関係者の意見を聴取する場は設けられるのか。

事 務 局 現時点での進め方は未定であるが、一般的には会議体を設置して、広く意見を伺うこととなる。

委 員 卸売市場の再整備はまちづくりの視点が重要だと考えている。したがって、政策部門や観光部門などの部署も含めて議論すべきだ。

事 務 局 会議体の設置目的に照らして必要な部局が参画することになる。そもそも、市場関係者から施設の再整備に重点をおいて早く進めてほしいとの要望があった中で、本検討委員会においても当初予定していた余剰地の活用方法を切り離して、開催回数を減らして議論いただいた。

幅を広げて議論するとなると、当然ながら期間も長くなるということとはご理解いただきたい。

会 長 副会長からコメントをいただきたい。

副 会 長 本検討委員会では、統一見解を取りまとめるのではなく、委員の意見を幅広く聴取するという方針で議論を進めてきた。大きな成果としては、先ほども話に出たように、明石市に食のビジョンがなかったら自分たちで作ろうという動きがあったことではないか。本検討委員会が当事者のモチベーションを高めるきっかけになり得たというのは、報告書には載らなかったとしても、大きな成果だと思っ

ている。明石市民でない者から見て、場内事業者が水産・青果・関連事業・管理センターの部門の垣根を越えて自分たちでこの地域の食の流通を何とかしようとする動きが出ていることに本当に感心しているし、これからの展開が楽しみだ。

明石市の特徴として、ボトムアップ型で市民と行政が協力して進める雰囲気がつくられつつあるのは、大きな強みだと思う。この強みは、今後の検討にぜひ活かしてほしい。

「はじめに」と「おわりに」を会長・副会長で考えさせていただくことになっているが、民間の力でビジョンを作成する動きが出てきたことは書かせていただきたいと思っている。

会 長 これまでの長期にわたるご議論に感謝申し上げます。

各委員がそれぞれの立場から主張していただいて、大変有意義な会議になったと感じている。

私もいくつかの卸売市場の運営委員会に参加させていただいているが、明石市のように市民・事業者からのボトムアップで食のビジョンを考える動きがあるのは非常に珍しい。委員の熱量も高く、また、毎回傍聴者も大勢来られており、関心が高いことがうかがえる。市民の方が自分事として考えておられるのは、他市にはない明石市の素晴らしい特徴だと感じた。

大学では経営戦略論を研究しているが、戦略を考えるに当たっては、まずはビジョンをどうするかが肝要だ。そういった意味では、明石市には食のビジョンがないということで、議論しにくかったと思う。本検討委員会においてビジョンの重要性に関する意見が出たことから、市においても策定に向けた検討が進められるものと考えている。その際は、本検討委員会の報告書が活用されれば幸いだ。また、報告書の「おわりに」において、事業者・市民が自らビジョンを策定する動きがあったことについては言及したいと思う。

委員の皆様には、長期間にわたる熱心なご議論をいただき、重ねて感謝申し上げます。

7. 閉会